

八尾市教育センター NEWS

令和5年11月

所報：391号

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



プログラミング研修

2. 防災プログラミング教育について

南海トラフ地震が発生する確率は今後30年以内に70～80%とされています。自然災害に備え、緊急地震速報が鳴ったときの行動をプログラミング的思考で考えることは、計画的で論理性のある安全な避難方法につながることを期待されます。

防災の内容をプログラミングを用いて学ぶことで子どもたちにプログラミング的思考を含む情報活用能力を育成することをめざし、このたび、志紀小学校とともに授業をつくりあげました。

令和5年10月10日
(火) 午後3時30分～
午後5時に、プログラ
ミング研修を行いました。
講師は本センター山野
元気指導主事で、研修テ
ーマは「防災プログラ
ミング教育」です。

研修に使用した
スライドの一部

カード例



<受講者感想>

- 防災教育は主体的に学ばせるということが難しいというイメージもあるが、今日の研修で、児童が避難の場面でどうする行動が良いのかをICTを使って、プログラミング的思考を体験させながら学ばせることができるということがわかった。まず自分のクラスで実践し、校内でも広げていきたい。
- ペアワークやグループワークを通して防災知識を高められるいい授業になるのではないかと考えた。全体の交流の中では、他の班と考えを共有しながら問題点を指摘し合えた。この学

習から家庭での防災意識も高まっていくようになれば学校での知識にとどまらず、大人になっても生きてくる知識になると思う。

- ・災害時に子どもたちにどのように避難させるのかを自発的に考えさせることがとても学びになった。避難訓練などは基本的に指示されたルートを迅速かつ適切に行動するかが重要とされるが、あえて子どもたちに考えさせることで、突発的なアクシデントにも対応できて生存確率も高まるように感じた。また、避難経路についてICTを使うことで、視覚的にも学べてより防災意識が高まるように思えた。自分の命を自分で考えて守る学習として今後、自分の教科でも取り入れていけたらと思う。

内容別特別支援教育研修C

きこえにくい人のコミュニケーションの手段

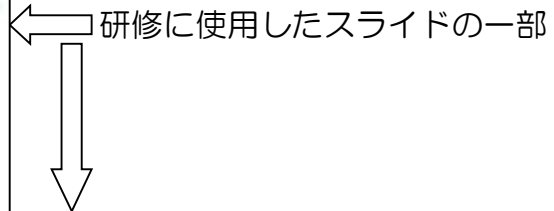
聴覚活用

- 口話：読唇、読話、発声、発話 口の動きをみて話している内容をよみとる
- 補聴器 音を大きくする
- 人工内耳 音を電気信号に変えて内耳を刺激する
- ロジャー・FM補聴システム マイクの音を直接補聴器に送る

視覚支援

- 筆談 文字を書いて伝えあう
- 日本語・絵・写真 見てわかる
- キードサイン・指文字 指の形で文字をあらわす
- 手話・身ぶり 手や顔のうごきで言葉やイメージを伝える

令和5年10月10日(火)午後3時30分～午後5時に内容別特別支援教育研修Cを行いました。講師は生野聴覚支援学校の花畠旬教諭で、研修テーマは「聴覚障がいのある子どもの理解と指導の実際」です。



<受講者感想>

- ・聴覚に障がいがあるなしに関わらず、はっきりとした口調で授業をしないといけないと思った。その他様々な配慮ができそうなので、もう一度自分の授業を見直そうと思った。
- ・生徒の反応の中の「大丈夫」にはいろいろな意味があり、非常に繊細であるということは、他の種類の障がいのある子にも通じることだと思った。
- ・就学前の施設では、子どもたちの困り感が自分の言葉では伝えられないので、保育者が感じとることが大切だと思った。
- ・同じデシベルでも聞こえ方に違いがあると聞き、聴覚検査では異常なくても、会話の時間聞き取りづらいことがあることを実感した。体験ではイヤーマフをするとほとんど聞こえなくなって驚いた。聞こえにくさや支援に気づくことができるようにしていきたいと思う。

(1) 障がいの認識と、障がいに基づく困難の改善・克服

指導内容(主に自立活動)

- 発音・発語学習(構音の改善にかかわる指導)
- 聴覚学習、聴覚管理(補聴器、ロジャーマイクなど)
- 言語指導(ことばの学習)
- 自己理解(自分のきこえや障がいを正しく理解し受け止める)
- コミュニケーションに関すること(手話、指文字)
- 教科の補充的学習
- その他

通級指導教室担当者会⑦

令和5年10月13日(金)午前9時30分～午前11時30分に通級指導教室担当者会⑦を行いました。講師は一般社団法人発達支援ルーム「まなび」今村佐智子理事で、研修テーマは「読み書きの基礎—ひらがな—」です。

読み書きの課題とは

- 読む
 - 文字が読めない
 - 読みがたどたどしい
 - ことばを間違って読む
 - 語尾を読み間違ふ
 - 拗音が正しく読めない
 - 漢字が読めない
 - 熟語が読めない
- 書く
 - 書こうとしても思い出せない
 - 拗音を書き間違ふ
 - 助詞(は、を、へ)を書き間違ふ
 - 漢字の送りながを間違ふ
 - ひらがなが正しく書けない
 - 漢字が覚えられない
 - 漢字を書き間違える
 - 編と傍の位置関係がとれない

読みの問題

書きの問題

※注意の問題からでもおこることがある

← 研修に使用した
スライドの一部

＜受講者感想＞

- 書くことの指導について、書字活動を支えるものとして身体活動があることについて、興味を持って聞かせていただいた。今後の指導にぜひ活かしていきたいと思う。
- 「間違いを指摘するのではなく、楽しいと思わない」という言葉が一番心に残った。文字が苦手な低学年の児童もいるが、「楽しく学べた、書けた、できた。」と思えるようにしていきたい。
- 文章を書くのに、どこでつまづいているのかを見極めることの大切

さを感じた。レポートや作文を書けない生徒が増えていると感じるが、そういう生徒のつまづきを少しでも解消できたらと思う。

『そだちのねっこ』

～乳幼児期の遊びより～

【Aくんみたいにしたいねん！ ～試行錯誤から達成感へ～】

10月16日(月)、2歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。良い気候の中、園庭で、大好きな先生と一緒に追いかっこをしたり、砂や水を使ってごちそうづくりをしたりするなど、一人ひとりが好きな遊びを楽しんでいました。



2歳児の様子



その中で、リヤカーに紐付きリヤカーをつなげて走るA児がいました。総合遊具の下をトンネルに見立てたりカーブする際は後ろを確認したりしながら走らせていました。それを見ていたB児も同じものが欲しいと思い、手押し車に紐付きのリヤカーをつなげようとしていましたが、うまくつなげられずすぐに外れてしまいます。紐がひっかかる部分がなくて滑ってしまう状況でした。そんなB児に対して保育者は「あ～、

また外れたね～」「どうやったら運べるかな～？」と心の声を共感しながら、何度も試している姿を大事にし見守っていました。周りにいた友だちも「こうかな?」「こっちにしたら?」と声をかけ始めていました。何度か試した頃に手押し車に積んであったボールを利用し、保育者はそっと紐をボールにひっかけてあげました。すると、うまくリヤカーと連結して進めることができたのです。B児の表情が一変し、「嬉しさ」と“できた?という驚き”とが混ざったような笑顔を保育者や友だちに見せていました。保育者も「できたね～」「動いたね～」と言い、言葉と表情でB児の気持ちに共感していました。周りで見



ていた友だちも動いた瞬間に思わず拍手をしていたのも印象的でした。

2歳児の頃は『友だちの持っているものに興味をもつ』『自分でもやってみよう』などの思いが出てきます。欲しいと思ったものをすぐに与えるのではなく、『自分でなんとかやろうとする』（＝考えたり、工夫したり、試したり、繰り返したりする）過程を見守ることもとても大事な保育者の役割です。また一緒に困りながらも、自分でできたと感じられるような援助のタイミングも大きなポイントです。



遊びの中で試行錯誤し、達成感を味わったこと（自信）は、自分でやってみようとする意欲となり、いろいろな遊びに興味をもつようになります。これは、未来に向かう力（非認知能力）の芽となり、2歳児の育ちのねっこ（＝学び）につながります。

年齢が低いとつい、『してあげなきゃ』『欲求をすぐに満たしてあげたい』と思うこともありますが、このような小さな育ちのねっこを大切に育て、未来へとつなげていきたいと思いました。

「技術」「家庭」授業づくり研修

令和5年10月17日（火）午後3時30分～午後5時に「技術」「家庭」授業づくり研修を行いました。講師は奈良学園大学西江なお子准教授で、研修テーマは「子どもたちが主体的に学び合える家庭科の授業づくり」です。

＜受講者感想＞

- ・ラーニングピラミッドがとても参考になった。小学校での学びと中学校での学びのつながりを考えていかなければいけないなということを再認識した。
- ・「主体的な学び」が実現できるようにするにはどうしたらいいのか、日々悩んでいるが、今日の研修を受講して、そのヒントが得られたように思う。
- ・授業内容の定着には、「グループ討論」、「自らの体験」、「他人に教える」で確率がグンと上がることをしり、今後の授業作りに生かそうと思った。

「道徳」授業づくり研修①

(2) 道徳的判断力の構成要素
(高宮・杉本, 2022)

○道徳的判断力の構成要素	
価値理解	・What: 意味、成立条件 ・意味: 真の友情とは何か。 ・成立条件: 友情が成立するために必要なものは何か。友情が成立するための条件は何か(信頼など)。 ・Why: 意義(理由、外用・目的) ・理由: なぜ友情は大切なのか。 ・外用: 友達がいるとどんなよいことがあるか。 ・目的: 何のために友情を育むのか。 ・How: 適用(手段の選択に前らない: 対象、相手、方法、筋の選択) (アリストテレス, 2016、西野, 2020, 2021) ・どんな対象に対して勇気を出すべきか(不足: 勇気、中庸: 勇気、過剰: 向こう見ずの見極め)。 ・どんな筋に正義であるべきで、どんな筋に正義でない方がよいのか(不足: 嘘つき、中庸: 正義、過剰: パカ正義の見極め)。 ※内容項目相反の関係や対立を考えることも適用に入る。 (「二語の手紙」では、規則の遵守vs.思いやり・同情。)
人間理解	・価値を実現できない弱さと、価値を実現する上での 阻害条件・促進条件 (村上, 1973) ・阻害条件: なぜ勇気を出せないのか。 ・促進条件: どうしたら勇気を出せるのか。

→教科を基として価値理解と人間理解をする。

令和5年10月20日（金）午後3時30分～午後5時に「道徳」授業づくり研修①を行いました。講師は大阪体育大学高宮正貴准教授で、研修テーマは「道徳的価値の把握に基づく教材の読み方と授業づくり」です。

← 研修に使用したスライドの一部

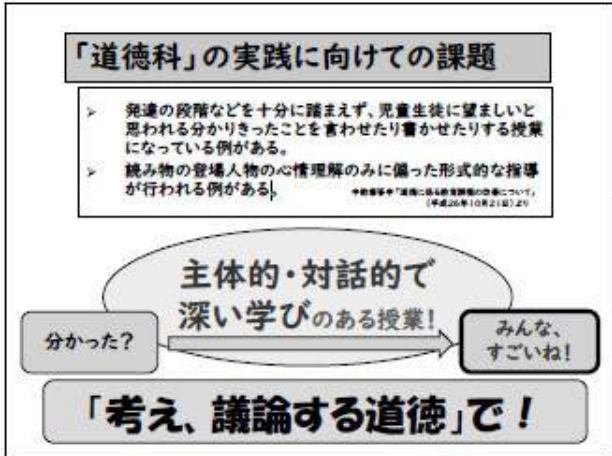
＜受講者感想＞

- ・道徳的価値をもとにして、発問をどのようにつくっていくのかを学ぶことができた。学級の

実態に合った授業づくりを行っていけると思う。

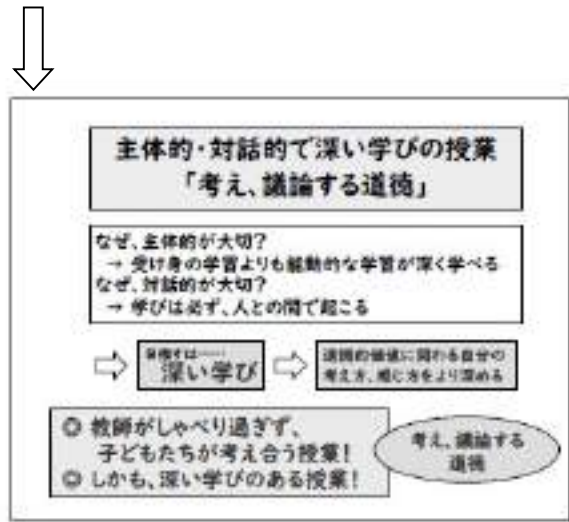
- 6つの観点から中心発問を考えることで道徳的価値に迫れることがわかった。
- 問題解決的な学習の作り方について学べたのがよかった。発問を what, why, how と分類して、子どもにつけたい力や教材との相性を考えて授業を組み立てていくことが良く分かった。これからの自分の授業に積極的に取り入れたいと思った。

「道徳」授業づくり研修②



令和5年10月24日(火)午後3時30分～午後5時に「道徳」授業づくり研修②を行いました。講師は畿央大学の島恒生教授で、研修テーマは「道徳授業の組み立て方と発問の工夫について」です。

← 研修に使用したスライドの一部



＜受講者感想＞

- 国語と道徳の違いについての説明が非常に印象的だった。国語は答えが教科書に載っているが道徳にはない。生徒たちにたくさん考えさせないといけないと思った。そのためには教師が話す時間も短くあるべきだということに納得した。
- ねらいに近づいていくことができる授業の組み立て方や発問の工夫を今後の自分自身の道徳の授業づくりに活かしていきたいと思った。何事も事前準備に時間をかけないといけないと改めて感じた。
- 道徳教育と人権学習の関係について知ることができた。今後も人権学習に絡めて授業を展開していきたいと思った。
- 何を学ばせたいのかというねらいを授業者がしっかり持ち、それを子どもたちの意見にして吸い上げ、授業をファシリテートしていくことを意識していきたい。

初任者研修⑩史跡探訪（オリエンテーリング）



令和5年10月26日(木)午後3時～午後5時に初任者研修⑩史跡探訪（オリエンテーリング）を行いました。訪問のポイントは教育センターがある高安小中学校区にある「しおんじやま古墳学習館」と「愛宕塚（あたごづか）」です。8班に分かれて歩いて二か所を探訪しました。

← 愛宕塚（あたごづか）古墳

<受講者感想>

- ・心合寺山古墳や愛宕塚古墳を初めて訪れた。八尾市にはこんな素晴らしい遺跡があることを知り驚いた。なによりこれらの史跡が現在まで保存されていて、我々が見学できることが素晴らしいと思った。子どもたちにもこれらの史跡の存在を知らせ、後世の人たちも見学することができるよう守っていききたい。
- ・一般の道を通るので、交通安全に配慮することはもちろん、交通マナーを守り地域の方々に迷惑をかけないようにしていかないといけないと思った。また生徒を引率してくるときのことを考えると、十分な下見と相応の安全対策が必要であると感じた。
- ・古墳の大きさは実際に体感してみてもよくわかった。写真などでは伝わらないものを感じた。子どもたちにもこの感動を伝えたい。

通級指導教室担当者会（公開授業研③）

令和5年10月27日（金）午後3時～午後5時に通級指導教室担当者会（公開授業研③）を行いました。新しく通級指導教室を設置した学校から動画によって授業を公開していただきました。その後、講師の一般社団法人発達支援ルーム「まなび」今村佐智子理事よりご講評をいただきました。

<受講者感想>

- ・教師は自分の授業を客観的にみるために録画するというのは有効な方法だと思った。経験年数を重ねた今でも、初心にかえりぜひ実行してみたい。
- ・特にコミュニケーションが苦手な児童には、ゆっくり話す時間を確保できるように配慮していきたい。
- ・小学校を卒業した児童が中学校に進学し、定期テストや高校入試に向けて、どう対応しているのか、また、小学校段階ではどんなことが準備として必要なのか、同じ中学校区の先生方と情報共有しながら、小学校でできることを考えてやっていきたいと思った。

特別支援教育コーディネーター研修④

令和5年10月30日（月）午後3時30分～午後5時に特別支援教育コーディネーター研修④を行いました。講師は梅花女子大学伊丹昌一教授で、研修テーマは「ソーシャルスキルトレーニング」です。

<受講者感想>

- ・「支援教育はすぐに結果を期待できるものではない。子どもと向き合い続けることが大切。」という言葉に気持ちが少し楽になった。子どもたちの行動をよく観察し、子どもの将来にとって、何が必要なのかを見極め、支援していきたいと思った。
- ・同じ体験を繰り返す場面に家庭も含まれているということに気付かされた。学校内の複数の場面だけでなく、家庭も含んで行動できるようにすることが子どもにとってより深い SST の学びになることは間違いなく、これからの支援の視点に取り入れていきたい。
- ・自立活動の時間に SST に取り組んでいるが、大人側が身に付けてほしいことを題材にしていることが多いと感じた。子どもは何を求めているかということについても考えて、丁寧に対応していかなければならないと思った。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は10月から11月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）11月号

- ・特集1 主体的・対話的で深い学びがめざすもの（1）
- ・特集2 学びを支える

「道徳教育」（明治図書）11月号

- ・道徳の板書 一書き方、タイプ、技、全部見せます

「そだちの科学」（日本評論社）10月号

- ・特集 自閉スペクトラム症のこれから

「こころの科学」（日本評論社）11月号

- ・特別企画 子どもの声を聴く 支援の現場から「子どもの権利」を考える

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）11月号

- ・特集1 頻繁に「相談したがる子」への対応
- ・特集2 担任と“支援員さん”が効果的に協力するために

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）11月号

- ・特集 いま改めて考えたい「合理的配慮」をどのように捉え、どう進めるか

「初等教育資料」（文部科学省教育課程課・幼児教育課編集・東洋館出版社）11月号

- ・特集Ⅰ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進
- ・特集Ⅱ [生活]多様な人々との触れ合い、交流する学習活動の充実

「中等教育資料」（文部科学省教育課程課編集・学事出版）11月号

- ・特集 スクール・ポリシーを踏まえた教育課程の編成・実施の推進

教育科学「国語教育」（明治図書）11月号

- ・**特集**徹底研究 「大造じいさんとガン」「走れメロス」の授業

教育科学「社会科教育」（明治図書）11月号

- ・特集 事前と事後で8割が決まる！「研究授業」リデザイン

